

情報ビジネス科 2024年度 第1回 教育課程編成委員会 議事録

- 1) 日 時 2024年6月24日(月) 16時00分～17時00分
- 2) 場 所 YIC Studio 2階 応接室、オンライン
- 3) 出席者 阿部 誉久様 (山口商工会議所 広域ビジネスサポートセンター長)
伊藤 恵一様 (株式会社きらら 代表取締役)
河津 道正 (副校長)
日當 泰浩 (事務長)
森野 茂弘 (教務課長)
豊田 菜摘 (教務課長補佐)
赤木 康二 (情報ビジネス科 教務係長・学科長)
- 4) 次 第
 1. 副校長挨拶
 2. 委員紹介
 3. 今年度の取組みについて (別紙1参照)
 - 1) 在籍状況
 - 2) 前回委員会での議題・問題点についての経過報告
 - 3) 検定目標
 - 4) 就職内定状況
 - 5) PBL授業の取組み
 - 6) 2024年度カリキュラムについて(昨年度からの変更なし)(別紙2参照)
 - 7) その他の取組み

5)議事録

1. 副校長挨拶

業務ご多忙の中、本日は誠にありがとうございます。

この情報ビジネス科、最大の競合校と言いますか、ライバルの方は高校生の就職です。

従来就職にしようか進学にしようかで迷っている学生さんが多い学科で、昨年に続き、今年も高校生の就職が非常に好調のようです。以前のバブル期以上と言われております。そうなってきますと、この情報ビジネス科をあえてここを選んでいただくそういった点につきまして、学内で色々模索をしております。そういった部分を踏まえて、委員の皆様にご意見いただけたら助かると思います。どうかよろしく願いいたします

3. 今年度の取り組みについて説明

1) 在籍状況について説明

2) 前回委員会での議題、問題点について説明

- ・ビジネス法務の授業について説明
- ・生成aiの活用について説明
- ・高校生に伝わるように言葉を選定することについて説明

3) 検定目標について説明

- ・1年生、基本的には情報関連資格、簿記、Microsoft製品の資格を取得。
 - ・ITパスポートは以前に比べて、シラバスバージョン5、6と内容が更新されており、新しい用語が追加されているので、問題対応が不足で不合格になるというのが現状。
 - ・IT分野に関して知識を定着させるということで、情報活用試験というのを先に受験
 - ・サーティファイ主催の試験を受験していたのですが、操作系の資格と活用系の資格という事でMOS(マイクロソフトオフィススペシャリスト)と日本商工会議所の日商PC検定のデータ活用を受験

4) 就職内定状況について説明

・2年生の方が22名在籍、うち21名が就職希望。1名は大学方編入で、進学という扱いになる。

- ・内定者3名、ウェブビジネスコースの方から出ている。

5) PBLの取り組みについて説明

- ・1年生の前期にプレゼン、コミュニケーションの取り方を学習
- ・1年生の後期の授業では株式会社TANSANとの連携事業で、カードゲームの企画提案を行い、
- ・2年生は通年のデザイン総合演習という授業で、山口県中小企業家同友会との連携事業を行います。

4社との連携で、株式会社シーパーツ、株式会社タムラ、松屋旅館、有限会社ケイ・アンド・ワイ

- ・チームごとに今週から会社訪問し見学を行う会社の運営や事業内容の見学を行う。

【森野教務課長】赤木から、今年度の取り組みについて、在籍者から始まり、検定試験の取得、あとは就職状況、pblの状況、それからと、前回いただきました議題、問題点についての経過報告というの中に入れておりました、色々内容があったんですが、うんと、ここまでのところでご質問、またはもう少しここを詳しくであるとかってというようなものがありましたら、ぜひご意見をいただければなと思っております。

【阿部】内定状況の、活動状況で受験中っていうのは就職活動の受験中という事でしょうか。

【赤木】説明会に参加して、次のアクションを起こして次受験するっていう手続きを踏むということです。

男性デザイン系の就職は母数が大きくないのですね。その中で、デザイン系の学生がデザイン分野に、方向転換するか、随時面談を継続している最中です。デザインコースで絵を描くことが

好きでもキャラクターデザインでは就職は難しい。商業デザインといったところ以外に、事務系、製造系など方向性について面談をしていくのが現状です。

【伊藤】今受験中の14名の方は、こういうご時世ですから、求人はものすごく多いと思いますが、意外と苦労されずに就職できると思ったのですが。

【赤木】受験するための情報について、マイナビ、リクナビ、などの大手の求人サイトから探している。説明会までは何社も行くのですが、次へ進もうというところでとまる子も多く受験に進まないのが現状です。1歩次に進むのが、勇気を持たない子が結構多く、そこを強引ではありますが受験する状況を作り出すようにしています。

【伊藤】山口県中小企業家友会が関わっているので、同様会として求人のイベントをやらせてもらってもいいのかなと思っています。

【赤木】同友会の就職委員会打ち合わせをして6月27日、4社に説明会をしていただくという形になりました。参加企業は、岡崎木材工業、シーパーツ、トクビル、はるひ福祉サービスになっております。11月に1年生を対象に情報ビジネス科以外にも医療事務、メディアデザイン科ひっくるめて実施することを想定しています。インターンシップを想定した就職説明会を検討したいと考えております。

【伊東】地元の学生さんですから、地元の企業に就職して、地元で活躍してほしいので、そういう意味でも、同友会としてはどこもかしこも人を欲しがっているので大きくして行きましょう。

【森野教務課長】続きまして2024年度のカリキュラムについてと、その他の取り組みについてお願いします。

【赤木】2024年度の情報ビジネス科のカリキュラムについて教育課程とカリキュラムマップの資料をもとに説明

【赤木】その他の取り組みについて説明

【森野教務課長】各事業でどのような目標でやっているかというようなものについて、ぜひともご意見等、あとご指摘等ございましたらお願いいたします。

【伊藤】実際に弊社であった話ですけど、クリーニング屋なのですが、最近、コンピューター分野で商談をいただいて、今それをすすめています。弊社がこのRFIDを導入して、チップで在庫管理をしています。コンピューターシステムを社内で、ノーコードで作ったのですが、それを山口県の方から評価していただいて、山口県を經由してクライアントさんが来てくださりました。説明してみて

納得していただきましたので、コンピューターの仕事をしていただいたという経緯があります。

【伊藤】クライアントさんっていうのが、貸衣装屋で、衣装がどこに何があるかわからないので管理をしたって言われていました。何回かお邪魔してヒアリングをすすめていくと従業員さんとして実はそこじゃないところに困っていらっしゃるということで従業員としては、今のシステムが非常に使いづらいのでなんとかしてほしいっていう話になって、急遽システムを作り変える話になりました。現状を拝見させてもらったところ全部エクセルで受注も在庫管理も資材の管理もしていた。今、システムをノーコードで開発を進めている。ITリテラシーを高めていただかないと、今の中小企業はそれをどのように変換したらいかすらわからない。もちろん仕事ができているのでエクセルでいいのかもしれないのですが、そのために従業員が何時間残業しているっていうのが事実で、システム組めばその残業がごっそりなくなるので、そういう提案ができるものが社内になのが事実なので、そういう学生さんが育てほしいと感じております。

【日當事務長】昔は専門学校に求められるのは、即戦力とか専門性とかっていう話で、何を学べばそれが育つのかは、通り一遍の科目を履修しただけではないと感じています。他の学校ではインターンシップに行きます。明確に違うのは、その実習で何をやるっていうのはあらかじめ決まっています。インターンシップでは、お任せですっていう風にはならないので、そこには企業の、受け入れ側の協力体制が非常に重要になります。言い換えれば、最初は総務のインターンシップで、2週間でそれが分かった人は、次のこういう分野をこちらがこれやっってくださいっていう感じで実施して引き受け側としてそれを要請していく。つまり、その学校でできないことを実習先にお願ひし協力をえていく必要があります。

【河津副校長】2点ございまして今ちょうどおっしゃった気がつくってところですけども、その他の取り組みのビッグデータを活用した授業を私が担当しております、学生がビッグデータだけ見ても気がつかない。なので、いろいろな事例を取り入れながら取り組んでいる。例えば、ホームセンターにドリルを買いに来た人は、その人にドリルを売ってほしいのではなく実は壁に棚を作りたい。道具がないからドリルを買いに来た。そこに気が付くのがみなさんの仕事という風に話をしている。事例は分かったとしても、じゃあその中で自分の習ったこととこれがどう結びつくのっていうのはまだないので、それは第2次ステップになる。

2つ目としては、冒頭に申し上げました、今後の情報ビジネス化の取り組みとして、数年後先に理系転換を考えています。要は、ちょっと細かい話ですが、今は商業実務専門課程として商業実務を専門に学ぶ過程です。国を挙げて理系に転換するように、大学がそうであるように、専門学校にも流れが来ていまして、どのような情報ビジネスの流れを組んだ理系がいいのかということ、文科省事業に提案したところです。

同友会の事務局長にもお願いをしております PBL の発展版の企画を考えているところです。要は、事務長からの話にあったように、1つのまとまった PBL ではなくて相手の業種に合わせた PBL をオーダーメイドで作っていくようなカリキュラムを作っていく話になっています。同友会会員

企業さんと協力していただきながら、地方ならではの PBL のあり方というのを文科省に提案しています。

【伊藤】自分の知っているその知識やスキルが、どれだけいきたい企業に対して価値を投資できるかっていうのが、本人が自信を持って受け入れられるっていうのは必要。さっきのビッグデータ1つとっても、そのビッグデータにどれだけの価値があるのか理解できないと、それをやってみようという気にならないですから、やっぱり自分が持っている資産とかがどれだけの価値があるかっていうのをやっぱり理解させてあげることが必要。

【阿部】実務的なカリキュラムと、もう一つは、卒業されてからの社会性っていうところで、バランスを工夫されながらだと思いますが、生徒さんも個人差がありここはいいけれどもここがっていう内面も含めて色々特性や状況がある生徒さんも自信を持てるような仕組みとして、インターシップで企業と協力していただきながら、そこが調整できるような中身があると、学生さんも後で助かったということになるのだろう。実務的なカリキュラムともう一つは、卒業されてからの社会性っていうところで、バランスを工夫されながらだと思いますが、生徒さんも個人差がありここはいいけれどもここがっていう内面も含めて色々特性や状況がある生徒さんも自信を持てるような仕組みとして、インターシップで企業と協力していただきながら、そこが調整できるような中身があると、学生さんも後で助かったということになるのだろうなと思ったりします。

【伊藤】Microsoft から Copilot+PC というのが導入される。社会を壊すか、今の環境を覆すのじゃないかっていうぐらいである。否定するわけではなく、表計算とか多分授業でやってもという話になってくると思う。全部 AI がやってくれるようになるのだろうなと思います。むしろ今、生成依頼で問題になっているのが、著作権とかの知的財産の AI。だから、そこで違法かどうかを気がつけるっていうのが、1つのキーワードになるのかなと思います。

【河津副校長】今後は、その生成 AI の分も、これは良い、悪いというジャッジができる人間が必要になると思います。

【森野教務課長】最後になりますけれども、学生に学ばしてほしいとか、今年は難しいけれども来年以降は取り入れてっていうのがもしございましたら最後にご意見をお願い致します。

【伊藤】何回もお話させていただいたのですが、やっぱり金融リテラシーですね。リテラシーを少し入れていただけると。10年、20年経つと、価値観というかね、自分の人生が変わってくるので、もうそもそも企業だってお金があって成り立っている。なんで日々自分らがやっている仕事はどうやってお金を稼いでいて、で、それがどれだけの価値があるかっていうのを、やっぱり学生がスパッと理解してくれると、やっぱり学生たちの動き方や考え方が変わってくると思う。例えば、その

学生さんってお小遣があると思います。お小遣いから毎月何に支払っているこの科目、最終的に残ったお金が営業利益、さらに将来、例えば、ノートパソコンが欲しいとしたら、それはいくらのノートパソコンで、それを何年後に買うかを決めたら、毎月いくら貯めて、何年後に達成できるってことだけだと思います。お金の使い方とかお金の価値とかで、また仕事をするることによって利益を上げるってことが理解できるのかなと思います。僕らの会社の従業員たちは日々働いていますけど、働いていることに対してどれだけの売上げを上げて、どれだけの利益をあげて、自分らがどれだけの人事生産性を上げているか、全然理解していません。

【赤木】銀行からお金を借りて、そういうデモンストレーションみたいな授業があると、難しく感じる簿記を楽しみながら学べると思います。

【阿部】簿記会計のところ、そういったモデルケースをみなでワークショップをやるっていうプランもあるかもしれません。

【伊藤】専門的なものをしてしまうと、とっつきにくくなっちゃうので、主生活に密接に関わっていることを知ってもらうと、またアクションとか考え方が変わる。

【阿部】スキル情報もあるのですが、モデルケースで、ワークショップみたいところで実践的なところがあれば、取り扱いや知識が活かせるようになるので、大変かと思いますがね、そういったカリキュラムもあるといいなと。

【伊藤】簿記をやっていると、当座とかでてくると思うのですが、当座の口座が出てくるとことは、掛け売りとかも出てくる。いまは実際に行っている企業はそんなにないです。現金主義ってなってきたので、そういう専門的なことではなくてちょっと簡単なところからでもいいかなと。

【森野教務課長】次年度への課題として宿題。

【森野教務課長】最後になりましたが、次回、2025年の2月ぐらいに第2回目の会議を開く予定でございますので、赤木の方からご連絡が行くと思いますので、その節はまたよろしく願いいたします。それでは、以上を持ちまして、情報ビジネスから第1回教育課程編成委員会を終了いたします。

5)決定事項

簿記の授業において身近な事例でワークショップ的に授業を行う。